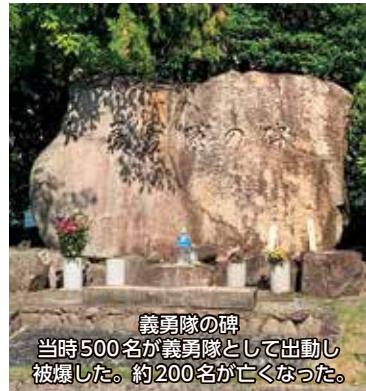


# あおもり民医連

2024年9月19日発行

【8面オールカラー】発行部数2,960部

発行元／青森県民主医療機関連合会  
所在地／〒030-0803 青森市安方1丁目11-6-1F  
TEL. 017 (723) 4076 FAX. 017 (773) 5326  
URL <https://aomin.jp/> e-mail [info@aomin.jp](mailto:info@aomin.jp)



義勇隊の碑  
当時500名が義勇隊として出動し  
被爆した。約200名が亡くなつた。

（健生病院 研修医  
泉匡平）

この死をきっかけに像がつ  
くられ、平和への祈りが世  
界中に広がっていることを  
知り、持参した折り鶴も奉  
納しました。

この死をきっかけに像がつ  
くられ、平和への祈りが世  
界中に広がっていることを  
知り、持参した折り鶴も奉  
納しました。



## 初めて原水爆禁止世界大会に参加

# 原水爆禁止2024年世界大会

8月4日(日)  
~6日(火)

青森県から12名、うち青森民医連から8名参加し、現地では民医連参加者集会も開催され交流を深めました。

## 原水爆禁止世界大会へ参加して

私は今回の原水爆禁止世界大会に参加し、原爆について知ること、それを次世代へ語り継いでいくことが今我々に求められていると感じました。

私は今回の原水爆禁止世界大会に参加し、強く思つたことがあります。それは原爆がもたらしたこと、その悲惨さを我々が語り継いでいかなくてはいけないということです。原水爆世界大会の分科会で、私は平和記念公園周辺の慰靈碑巡りへ参加しました。

使わせてはならないと語る、語り部の方の気持ちが痛いほど伝わってきました。その語り部の方々も、現在は当時戦争を体験された方の家族や知人などがほとんどだと言いま

す。原体験を語れる方もだんだんと少なくなつてきていた

とのことでした。私が今、原爆の悲惨さを知ることができ

ているのは、つらい記憶を呼び起すことになつても語り継いでくださつた方々がいた

ことでした。特に、日本が米国に依存し核兵器禁止条約に参加しない現状に対して、海外からも疑問の声がある



事業所や利用者から託された折り鶴

この死をきっかけに像がつ  
くられ、平和への祈りが世  
界中に広がっていることを  
知り、持参した折り鶴も奉  
納しました。

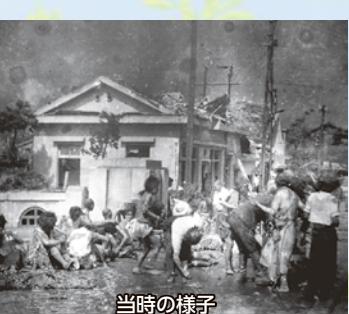
この死をきっかけに像がつ  
くられ、平和への祈りが世  
界中に広がっていることを  
知り、持参した折り鶴も奉  
納しました。

今回、初めて原水爆禁止2024年世界大会に参加し、不安な気持ちで臨みました。八戸から広島までの長旅の末、到着後に感じたのは「サウナのような暑さ」でした。初日は広島の原爆記念写真館を訪れ、原爆投下前後の街並みや被爆者の痛ましい姿、放射線による影響を示す展示を見て、核兵器の恐ろしさを感じて実感しました。

3日目には、「NO戦争・STOP大軍拡・守ろう平和・暮らし」に関する分科会に参加し、全国の活動や基地問題について学びました。特に、日本が米国に依存し核兵器禁止条約に参加しない現状に対して、海外からも疑問の声がある

ことです。この大会を通じて、自分に何ができるのかを深く考え、行動に移す必要性を強く感じました。

最終日の平和記念式典では、広島市長や子供たちが軍事費の増大に疑問を呈する中、岸田総理のスピーチはその点に触れず、広島県出身の総理としての姿勢に不信感が残りました。ロシアとウクライナの戦争も続いているおり、世界平和はいつ訪れるのでしょうか。



当時の様子

広島・長崎での悲劇から今年で79年目になります。被爆80年に向けて、核兵器のない世界、非核平和の日本を生きひらく重要な節目の大会となりました。今回の大会参加で、自分自身の行動を見直し、次の世代に平和の大切さを伝えていくことの重要性を学びました。この貴重な経験を通じて、決して戦争を繰り返さないという決意を新たにしました。

（生協小規模多機能ホーム  
みなみのいの家 主任  
東野めぐみ）

第67回 弘前で全国の医療系学生が学び、語り、交流する

# 全国医学生ゼミナール in 弘前

8月16日(金)～18日(日)、弘前大学で医学生が主催する第67回全国医学生ゼミナール in 弘前が開催されました。参加した医学生の奨学生からの感想を掲載します。

## 全国医学生ゼミナール(医ゼミ)とは?

医学生の団体が主催する学習・交流を行う全国企画。全国各地の大学に「医ゼミに参加する会」があり、より良い医療者を目指すという視点で学習会などの自主ゼミ活動を行い、夏の医ゼミ本番で各地で学んできたことを分科会などで発表します。今年も日本医師会をはじめ、民医連など多くの医療系団体が後援しています。

医ゼミとは「全国医学生ゼミナール」の略称で、毎年8月に全国の医療系大学や一般学部、高校生、専門学校の学生が集まり、学習や交流を行いうイベントです。学生自身で全ての開催準備をおこなうことが特徴で、日本最大規模のものとなります。

今年の医ゼミの主管校は弘前大学で、テーマは『こころの健康を考える』でした。

医ゼミでは本番2週間前からを全国準備期間として、メインテーマや平和についてのレポートを作成し、医ゼミ本番ではその内容についての学生発表をおこないます。

実行委員が作成したレポートと学生発表を通じて生殖医療について知り、SRHR(性と生殖に関する健康と権利)の理解を深めることができました。

メイン講演はドラマ「コード・ブルー」のモデルとなった日本医科大学千葉北総病院の本村友一医師と、鶴舞こころのクリニックの渡邊貴博医師の2つあり、どちらもとてもアツい話でした。

分科会も連日おこなわれ、学生発表者が参加者と語り合いたい話題を持ち寄り、話し合うことで、双方が新たな知見やモチベーションを大い

に獲得することができました。

3日間ともプログラムの最後には交流会が開催され、青森県の美味しい食べ物に舌鼓を打ちながら、学生同士で日中よりも交流を深めることができました。

私自身、医ゼミは初めての現地参加でしたが、学生で企画全てを作り上げ、学校学部問わず全国の学生を集め大いに語り合う場に感動しました。新たな友人とも出会い、様々な活動をしていく上で大きなモチベーションを獲得できた最高の時間でした。

(県連弘前事務所 矢作史考)



アイスブレイクに続き学習企画。昨年全国青年ジャンボリーで講師を務めた高橋悠太さんを迎えて、「私たちの社会は私たちの手でつくっていこう!（核の問題から、私たちの暮らしやいのちを守ることを考える）」をテーマに講演。個人の問題としてだけではなく、私たちの暮らしやいのちに関わる問題として捉え、社会に働きかける必要があるという事を伝えて頂きました。

昼食休憩を挟んで高齢者疑似体験セットを装着し、折り紙、箸でおはじき移動、字を書く、廊下歩行、階段歩行など体験しました。字が書けない、耳が聞こえづらい、視野が狭くなる、隣に人がいるのがわからなかつた、段差を超えるときに前屈になり転びそうになり怖かったなど感想があり、高齢者に対して、声掛けの工夫や身体症状別に、どんなところに注意しなければいけないのか学ぶことができ、今後の実習にも活かされるといった感想も多く聞かれました。来年は山形県での開催。今から楽しみです。

(青森保健生協 看護師対策看護長 長牛真理理)

東北6県

看護学生と  
仲間たちのつどい

T6ENC

＼開催！／

8月10日(土) 青森市アピオあおもりにて「東北6県看護学生と仲間たちの集い(T6ENC=東北6県エッグナースサークル)」を開催し、東北各県から83名(看護奨学生40名、職員43名)が参加しました。

コロナ禍により中止2回・オンライン開催2回を経て5年ぶりの集合開催となりました。今年の3月から

職員・学生実行委員会を組織し、「Together Go For It(みんな笑顔ではじめの一歩)」をテーマに準備を進めてきました。

アイスブレイクに続き学習企画。昨年全国青年ジャンボリーで講師を務めた高橋悠太さんを迎えて、「私たちの社会は私たちの手でつくっていこう!（核の問題から、私たちの暮らしやいのちを守ることを考える）」をテーマに講演。個人の問題としてだけではなく、私たちの暮らしやいのちに関わる問題として捉え、社会に働きかける必要があるという事を伝えて頂きました。



# 2024年度 職場管理者・職場管理補佐研修

「総会方針」をみずから学び、元気に実践するきっかけとしながら、全職員が元気に実践するため、どのように支援していくかをグレープワークで交流し職場づくりにいかす

7月12日(金)、23日(火)、29日(月)と浪岡中央公民館にて職場管理者・職場管理補佐研修会を開催し、1開催毎に70～80名が参加して計231名が学習しました。講師には県連事務局長の宮本達也氏を迎え、「第46回全日本民医連総会 青森県民医連総会報告」をお話しいただきました。

講演から、「誰もが身体的、精神的ケアなしでは生きられない」し、「個人の尊厳が最大限尊重され育まれる」ことをケア労働者は目指している」『ケアの倫理』を深め医療・介護活動の2つの柱を実践することにより、事業と経営を守り、運動を前進させたい」と総会方針を学びました。そして非戦、生存権、人間の尊厳、多様性の尊重、ジエンダーパートナーシップ、政治の実現など、大切なキーワードを確認しました。

「ケアの倫理」についてふれた内容から、「ケアの倫理」は自己責任論や普遍性から離れ、公正、反暴力、自分と異なる他者への尊重を前提としていると学びました。学びながら、実践の一つとして前例にとらわれない個別性のある求めに応えて寄り添うことどうかと考えました。技能の水準も求められるのだと感じました。

「ケアの倫理」を深め、私たちの医療・介護、福祉にいかし事業・経営・働く人を守ることにつなげていく。ケアが必要とするもの、ケア労働者が適正に評価され、尊厳が守られる社会にしていく。そのために社会に働きかけなければならぬと再確認しました。

青森民医連総会報告から、方針のもと県連内の課題をとらえ、法人事業所を超えて県連全体で乗り越えていくのだと確信しました。職員一人一人が課題に関心をもち取り組むために、管理者・管理補佐職が果たす役割は大きいと感じます。管理者・管理補佐職は自身の学びと実践、ともに働く職員が学び実践するための支援が任務となります。研修会で学び、交流により得たヒントや共感から、課題の見直しや取り組みの前進につなげていきましょう。

(医療事業協事務長 小形てる美)



## 第46期 第1回評議員会

70年の歴史を力に、人権の砦たる民医連事業所を守り発展させよう



8月24日(土)、評議員89名、全日本理事88名の出席で第1回評議員会が行われました。岸本事務局長の理事会報告より、46回総会以降の情勢の特徴を掴み、第2回評議員会までの半年間はたたかいを強め、地域要求にこたえ、持続可能な民医連の事業と経営を、力を合わせてつくり出す重要な時期になることを呼びかけました。

討論は①総会後の情勢の特徴、②地域のいのちとくら

しを守るため、経営を守り抜こう、③いのち優先の社会、ゆたかな医療・介護のために予算を使う政治への大転換の実現に向けた実践を柱に34本の発言がありました。とりわけ事業と経営を守り抜く当面の課題について、経営改善の基本は医療・介護活動で地域の矛盾と要求に積極的に応えることであり、地域分析を踏まえた医療構想を再構築して中長期経営計画を確立し、スピード感を持って実行しなければいけません。

直面している困難にひるむことなく、民医連綱領の実現という大きな目標に向かって力を合わせることが今ほど重要な時はありません。特に、県連理事会・各法人におかれましては、青森、弘前、八戸、浪岡、黒石、五所川原各地域の医療・介護を守り抜く強い決意(決断と実行)が求められています。共に頑張りましょう。

(県連事務局次長 柳谷円)



# 大間原発反対現地集会

7月21日（日）大間町で開催された「MAGROCK第16回大間原発反対現地集会」に参加しました。7月20日と21日の2日間合わせて約340名の参加でした。大間原発の建設、使用済み核燃料中間貯蔵の事業開始、六ヶ所村での核燃料サイクル事業の反対をアピールしました。

大間原発とむつ市に建設中の使用済み核燃料中間貯蔵施設は、今年9月までに使用済み核燃料12トンが入った容器が搬入されようとしています。むつ中間貯蔵施設に貯

藏された使用済み核燃料の搬出先がないこと、核燃料サイクルの見通しが立たないことが明確になっています。搬入を進めてしまうと、未来の子供たちに核のゴミが強引に押し付けられることになります。

今回集会に参加して、私たちが安全に暮らせるように、そして二度と同じ経験を繰り返さないために、今の問題を他人事にしないよう今後も学習していきたいです。

（ファルマ弘前薬局 中西茉季）



## 青森県社会保障推進協議会

# 第28回 定期総会

7月27日（土）アスパム5階にて約50名の参加で行いました。総会に先立ち、『生活保護を本当の権利に～桐生市の事件に学びながら～』田川英信氏（全国アクション事務局）の記念講演がありました。桐生市における生活保護受給者に対する生活保護費を1日1,000円に分割して支給し、月の保護費の半額程度しか渡さない、職員に恫喝されたり暴言を吐かれた等、数々の問題点が発覚、自治体が人権を無視した犯罪行為があったことが報告されました。次々と下げられてきた生活保護の基準は生活保護利用者の生活に直接影響するだけでなく、多くの国民の生活に直結するものであり、物価統計の「偽装」をしてまで保護基準を引き下げたことは違法とのいのちのとりで裁判にも触れ、生活保護を本当の権利にするためには、たたかいが必要との講演がありました。

続いて定期総会が行われ、総会及び方針案の提案、決算・予算報告がありました。各地域社保協からもそれぞ

れの取り組み報告を受け、地域での



様々な活動を共有することができました。2023年度の自治体キャラバンにおいては、就学援助制度の前倒し支給（32自治体）、こどもの医療費無料化（外来29自治体・入院30自治体で無償化が実現）、学校給食完全無償化（2024年10月までに学校給食完全無償化は37自治体になる予定）、加齢性難聴の補聴器購入補助など前進が見られました。その後、採択が行われ全ての議案が採択されました。

国民のいのちと暮らしを守ることに団結し、憲法を守り・生かす社会を目指しつつ、住民とともに社会保障充実を求める、連帯して運動をすすめていくことを確認しました。

（県連事務局次長 尾馬康文）

## 第37回 看護卒後研修症例発表会

7月7日(日)第37回看護卒後研修症例発表会がアピオあおもりで開催されました。参加人数は92名でした。開会あいさつでは鳴海看護委員長より私たちの現在置かれている状況、旧優生保護法、貧困など社会情勢などから民医連看護の基本となるものや実践していくことの大切さを話されました。記念講演では、田代実会長より「社会情勢と民医連医療の役割」というテーマでお話があり、私たち職員が人権のアンテナを張り、病気だけではなく患者の社会背景も含めて一人の人間として



集合写真



発表の様子

みる視点を養うことの重要性を、講演の中から理解できたのではないかと思います。午後の症例研究発表会では、活き活きした発表が3つの分散会でされ、質問にも堂々と答える姿、講評者も含め職員の成長を感じさせられました。発表者、講評者は発表・講評の際はマスクを外して話してもらう試みをしましたが、コロナ禍からマスクをはずしての対話はすべてに浸透していました。今後も感染対策を行ながら、研修症例発表会を対面で開催していきたいと思います。

(生協さくら病院 副総看護長 最上正一)

例年行われている事務職員基礎研修が、今年度は弘前で開催されました。初めに新入職員自身が作成した資料「私のトリセツ」を使い自己紹介を行いました。各新入職員の好きなこと嫌いなことについてユーモアあふれる自己紹介に、会場の緊張も和らぎました。

講座は全5講座実施しました。県連對馬事務局次長からは「情勢を知ろう」について、健生クリニックソーシャルワーカー高木佳那子氏からは「地域に根差した医療活動を知る」について、生協さくら病院小山内事務長からは「先輩の経験から学ぶ」について座学があり、その他にファルマ体験など実践を交えた講座も行われ、有意義な研修となりました。

参加した新入職員からは、「民医連の医療機関で働く事務職員に求められることを知ることができた」、「高齢者疑似体験を通して高齢者が抱えていた不安や大変さについて身をもって知ることができた」などの感想が出されました。

(津軽保健生協  
総務部次長

古村律子)

7月31日(水)、弘前市民会館にて事務職員基礎研修を開催しました。23年度中途入職事務職員および24年度の新入事務職員の計6名が参加し、情勢についての講座をはじめ全5講座を学びました。



中央の6名が受講者です

## 2024年度 事務職員基礎研修

組織の中で求められている事務職員像を知ろう

各地のとりくみを共有し今後の憲法・平和を守る活動に役立てよう

## 全日本民医連 憲法・平和守るイチオシのとりくみ交流会

7月3日(水)、憲法・平和守るイチオシのとりくみ交流会がオンラインで開催されました。プログラムは日本共産党所属の山添拓参議院議員からの情勢報告をはじめ、各地の民医連事業所でのとりくみ紹介と交流が行われました。



情勢報告では、山添議員が通常国会で発言している動画が紹介されました。同国会では、防衛省設置法の改定、次期戦闘機共同開発条約の締結、食料・農業・農村基本法の改定が強行されたことについて、日本が戦争する国に近づいている危険性が訴えられました。そして、改憲を許さないためにも声を上げ続けることが必要とのお話がありました。

各地のとりくみ紹介では、奈良・新潟・大阪・宮城・富山での活動が紹介されました。訪問や成人式での署名活動やスタンディング行動、かるた大会や懸賞品付きコンクール、若手職員への学習会など工夫をこらした活動

をされていて、内容は「憲法を守る、平和を守る、戦争反対」として全国で統一行動をしている実感がありました。辺野古支援連帯行動については全日本民医連のほかに、九州沖縄地協や関東地協でも独自の行動が取り組まれているとのことでした。3日間のスケジュールで米軍基地見学や辺野古ゲート前視察、戦跡巡りなどを行い、沖縄の抱える問題を肌で感じるそうですが、防衛費を倍増させ日米同盟を優先している日本は他人事ではなく同じような問題に近づいているという危機感を感じるお話をでした。

最後の意見交換では、県連青森事務所の相馬志保さんが青森でのピースメイトタオルを活用したとりくみを紹介してくださり、改めて民医連が活動する意味を気づかされた交流会でした。 (健生病院 病歴 八木橋香)

## 医師になりたいという思いが強くなった！

7月25日(木)・29日(月) 健生病院、7月24日(水)・8月3日(土) 八戸生協診療所、8月9日(金)・21日(水) あおもり協立病院の3会場にて計6回開催し、医師を目指す40名の高校生が参加しました。

健生病院では、伊藤真弘医師による講演『生きるための緩和ケア』と参加者の要望に応えながら行う院内見学、研修医との聴診器体験・交流会を行いました。八戸生協診療所では、診療所見学や医療機器体験、高橋亜実医師の講演『医療者を目指す皆さんに知って欲しい、診療所というフィールドの魅力と私のやりがい』、聴診器体験と交流を行いました。また、八戸診療所の訪問診療に高校生が同行しました。あおもり協立病院では、相馬裕医師の院長挨拶と研修医から多職種協働の重要性を学んだ後、院内見学を行いました。院内見学では放射線科、検査科、薬局、



訪問診療に同行

用度管理の各職場の皆さんに温かく迎え入れ、工夫を凝らした医療体験を提供してくれました。

「医師はかけがえのない仕事。医療スタッフとして一緒に働く日を楽しみにしています」と多くの職員の方にエールの言葉をかけてもらいました。

参加者からは「医療現場は想像よりも多くの人が関わり、チームで医療を支えていると実感した」「研修医や病院内で働く様々な人と交流をすることはここでしかできない貴重な経験だった」「医師の働く姿が明確になり、より一層医師になりたいと思った」などの感想が出されました。今後も取り組みを前進させていきます。

(県連弘前事務所 葛西美冴)



院内見学の様子

## 2024年夏 高校生一日薬剤師体験会

7月25日(木)・30(火) 八戸会場に各6名、8月3日(土) 弘前会場に7名、8月17日(土) 青森会場に6名の高校生が参加し、薬局見学・調剤業務体験・薬剤師の講演を対面で開催しました。

3会場とも薬局活動をパワーポイントで紹介した後、薬剤師が実際に働いている現場で見学、模擬体験を行いました。あけぼの薬局八戸店、健生病院、ファルマ弘前薬局、あおもり協立病院、大野あけぼの薬局、それぞれ薬局の特徴をいかし各会場で工夫を凝らした模擬体験でした。また、各会場で高校生からの質問に薬剤師が答える時間を設け、やりがいや責任等についての理解を深める機会となりました。



青森県は人口比に占める薬剤師数が下位であること、全国の薬科大学数が増える一方で定員割れしている現状を紹介しました。薬科大学に入学はしやすいが薬剤師になるハードルは高いという現状を

伝え、コツコツ勉強を6年間積み上げてがんばってほしいと激励しました。地元に薬科大学があるとはいっても、私立大学の学費は高い

ので在学期間中の学費を紹介し、青森民医連奨学金制度をはじめ高等教育就学支援制度(授業料等免除と給付型奨学金)や学生支援機構など、公的な奨学金制度の紹介を行ないました。

参加した高校生からは、「実際に現場で薬剤師がどう働いているかを見たり体験して知ることができた」「より一層薬剤師に対する憧れが強くなった」「患者さんを安心させられる素敵な薬剤師になりたいと強く感じた」など前向きな感想を頂きました。今後も薬剤師の魅力をじっくりと味わってもらう体験会を継続していきたいと思います。

(県連青森事務所 端村由貴人)



## 高校生 医療技術職体験会を初開催!!

7月29日(月) 健生病院にて「高校生 医療技術職体験会」を初めて開催しました。近隣の高校に呼びかけたところ6校から56名の高校生が参加してくれました。

医師や看護師、薬剤師の体験会はこれまでありましたが、それ以外の医療職の体験会はありませんでした。実際にその職業に触れることで進路の参考になればと、今回は「診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、臨床工学技士」の8職種について、高校生を対象に体験会を開催しました。

希望するそれぞれの職場で業務見学、体験を行いました。内容は、放射線科では身近なものをX線撮影して写真の見え方を体験、リハビリでは模擬患者になってリハビリ体験、栄養科では自分が前日食べたもののカロリー計算など、検査科ではエコー検査体験や血液型検査の実験など、臨床工学科では透析機器を使っての実

験、サポートセンター(社会福祉士)では困難を抱える人の生き立ちまでさかのぼり支援について考える検討会でした。最後に自分が学んだことの報告と「医療職の多職種連携」について

グループディスカッションも行いました。

参加者からは、「ネットで調べるだけでは分からることを知れた」「直接職場を体験する機会がなかったが、今回のような職なのかを身をもって知れたりし、将来の職業の選択にも貴重な機会だった」と好評な意見が多かったです。

業務の合間に準備をしたり当日の対応に時間を割いたりと大変ではありましたが、対応した職員にとってもやりがいのある体験会となりました。今後も定期的に開催していきたいと考えています。

(健生病院事務局 技術部長 尾馬圭)



「どこまでできるか、民医連の循環器医療2.0」～多職種協働で挑む後継者の確保と育成～

## 第38回 全日本民医連循環器懇話会 in あおもり

前回の青森開催から8年ぶりとなる全日本民医連 循環器懇話会 in あおもりが、2024年11月22日(金)～23日(土) リンクス テーションホール青森にて開催されます。

この度、全日本民医連第38回 循環器懇話会 in あおもりの事務局長を拝命いたしました、あおもり協立病院の伊東智博です。

これまで新型コロナウイルスの影響により、対面での懇話会開催ができない状況が続きましたが、今回現地で対面での懇話会

会開催となり、大変うれしく思います。循環器医療に携わる多職種同志が現地に集い、昨今の話題や日常業務での問題を話し合うことは、対面だからこそ得られる刺激があり、今後の原動力に繋がることだと思います。

今回のシンポジウムは、議論 「多職種で取り組む民医連の循環器医療～コメディカルが果すべき役割とは～」としました。それぞれが抱える問題や取り組みについて共有し、大いに議論たいと思っています。

をしやすいよう医師とコメディカルでテーマを分け、①「後継者の確保と養成」(医師向け)、②「多職種で取り組む民医連の循環器医療に携わる方はぜひとも参加して頂き、多職種同志、熱く語り合いましょう。

また懇親会では、参加された皆さまがお楽しみいただけるよう、青森ならではの余興を用意しております。

(あおもり協立病院 検査科  
主任 伊東智博)

第38回 全日本民医連 循環器懇話会 in あおもり  
実行委員会 事務局  
あおもり協立病院  
事務局長：伊東 智博  
事務局次長：柳谷 円  
事務局：梅原 真由美・櫻田 雄大・常田 ひろみ  
TEL:017-729-3406 FAX:017-729-3260  
E-mail:junkanki@aomin.jp

2024年  
11月22日(金) 14:00～17:45  
11月23日(土) 9:00～12:30  
会場 リンクステーションホール青森  
実行委員長 内藤 貴之 あおもり協立病院 副院長  
<https://minyunkon38.secand.net/>

## 県連事務局人事往来

弘前事務所医師医学生課に配属となりました。病棟勤務30年を経て、今回の異動はサプライズです。加えて(記憶が正しければ)機関紙に投稿するのは初めてです。オジサンの鈍感力を活用しながら、常に二手三手先を読んで行動し、医師を始めとする将来の人財育成・確保を第一に目指したいと思います。



着任 きくち いさお  
菊池 力

(津軽保健生協⇒弘前事務所) 7/1付

帰任 みやこし いづみ  
宮腰 和実 (弘前事務所⇒津軽保健生協) 9/1付

## いつでも元気

2024 10月号 380円 好評発売中

保険証なくすな!

百均で防災 広島

けんこう教室 鍼灸治療と養生(下)

「こんな病院めったにないぞ」 石川

まちの子カラ 秋田県三種町

食と健康 腸活おかげ



発行=㈱保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657



現地実行委員会の様子

# うちの メココ

vol. 80



食欲旺盛な金魚たち

前任者からいきものがかり「メダカ」を引き継ぎ4か月が過ぎた今日この頃。メダカに餌を与えようすると、私の顔を覚えたのか水草の中から小さな口をパクパクと開けながら、元気よく浮かんでくる様子がとても愛しく思えてきました。

20匹ぐらいおりますが、とても食欲旺盛で、すごく大きくなっています。毎日元気よく泳いでいます。

水替えは少し大変ですが、この子たちの為と思い、真面目におこなっています。去年はかわいい子供たちがいっぱい生まれましたが、今年はまだです。

生まれたてのメダカは視力が良くないと中々見えませんが、少し大きくなるとウヨウヨいるのがはっきりと見えてきます。

また金魚も同時期から飼育しており、とても元気よく大きくなりました。利用者様も時々餌を与えておりますが、時間がたつのも忘れて「ずっと眺めていたい」と笑顔で話しております。

今後もメダカ、金魚たちと仲良く交流していきたいと思います。 (デイサービス 虹のひろば新城 佐藤広記)



涼しそうなメダカたち

## 私の三つ星★★★

オススメ

### 男鹿半島 雲昌寺のあじさい～死ぬまでには行きたい絶景スポット～



あじさいと男鹿の海

私の三ツ星は、「死ぬまでには行きたい世界の絶景」公式WEBサイト2017年「国内ベスト絶景第1位」に輝いた、秋田県男鹿半島にある雲昌寺のあじさいです。なんと1500株以上のあじさいが境内を埋め尽くしているという、とても神秘的なお寺です。また海の近く

の高台にあるため、あじさいのバックには男鹿の海が広がり、まさに絶景を作り出しています。

あじさいの咲き誇るシーズンは6月中旬～7月上旬。6月下旬の週末に訪れましたが、国内だけでなく海外からも観光客が多くやってきており、とても賑わっていました。お寺ですがなんとカフェも併設されており、あじ



映えスポット



可愛いお地蔵さん

さいティーやあじさいブルーソーダなど、あじさいにちなんだメニューもあります。また紅葉もとても綺麗ということなので、これからは紅葉を楽しむ場所としてもおすすめです。ぜひ、みなさんも一度行ってみませんか？

(健生病院 医局医学生課 課長 下村博央)

9月

2024年9月

### 第57期第5回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 決裁・承認事項
  - (1) 授学生関係
  - (2) 県連・地協・全日本関係
    - ①第46期全日本民医連 部員・委員の委嘱要請
    - ②薬学生のつどい in 福島 参加費用
  - (3) 各種委員会から
- >> 4. 協議事項
  - (1) 第46回第1回評議員会参加報告
  - (2) 「オール地域」での「たたかい」を前進するための方針の具体化
  - (3) 第57期青森民医連・各種委員会の体制(案)
  - (4) 第38回循環器懇話会 in あおもり 現地青森開催の参加組織を
- >> 5. 医師・医学生関連
- >> 6. 報告事項
  - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
  - (2) 地協
  - (3) 県連・共闘関係
- >> 7. 各法人・事業所から